

令和6年度に係る自己点検・評価の報告書

令和7年6月26日
部局名：ヘルスシステム統合科学研究科

1. はじめに

ヘルスシステム統合科学研究科では、令和6年度に係る教育課程・学生支援・学生受入、研究、総務を対象とする自己点検・評価を実施し、以下のようにその結果を報告する。

2. 実施体制・手順

教育課程・学生支援・学生受入については、学務委員会委員長（教育担当副研究科長）と学務課大学院担当職員で協議・連携して関係規程類等を根拠資料として収集し、学務委員会において確認・承認を行った。

研究については、総務課で研究倫理教育の実施記録を根拠資料として収集・確認した。

総務については、総務課で教員選考に関する内規等を根拠資料として収集・確認した。

これらの資料に基づいて、研究科長室会議での確認・承認を経て教授会において自己点検・評価を実施した。

3. 総括

ヘルスシステム統合科学研究科では、令和6年度に係る学生支援・総務の項目については適切、教育課程・学生受入の項目については改善を要する、研究の項目については注意が必要と判断した。

4. 前年度の点検・評価の結果、確認された改善を要する事項（前年度の点検・評価実施時点で対応済のものを除く。）の対応状況

該当なし。

5. 点検・評価の結果、確認された改善を要する事項のうち主要なもの

【1-2-38】修了後一定期間の就業経験等を経た修了生からの意見聴取ができていないため、実施に向け修了者情報の収集方法を決定し、情報収集を行っている。

【6-2-4】博士後期課程において実入学者数が、入学定員を大幅に下回る状況（約0.4倍）になっており、F D研修会にて博士後期課程の定員充足方法について、教員全体でディスカッションを行った。

6. 点検・評価の結果、確認された全学での検討が必要な課題のうち主要なもの

該当なし。

7. 点検・評価の結果、「注意が必要」とした事項に対し、維持・向上させるための活動計画のうち主要なもの

【7-2-1】未受講者・指導教員への個別メール送付等により受講依頼を増やし全員の受講完了を目指す。

8. 点検・評価の結果、優れた成果が確認できる取組のうち主要なもの

該当なし。